

令和2年度授業改善推進プラン

- (取り組み内容)
- ・毎学期の終わり、自分の担当(各学年ごとに項目だてて)の授業に関して作成する。
 - ・本年度の自己の研修課題に関連し、自己の授業を分析し課題を見いだす。
 - ・見いだされた課題に対し改善プランを立て、指導方法の工夫・改善を図る。
 - ・学期の終わりに検証を行い、来学期につなげていく。

教科名(英語②) 教科担任名 エマール フランソワ夏樹

★教科・観点について

期末テスト及び学期の学習状況、生徒の授業アンケートをもとに分析し記入する。<○成果 ▲課題>

観点	1学期			2学期			3学期
	学年	課題分析	具体的な改善策	学年	課題分析(授業改善・プランの1次評価)	1次評価後の具体的な改善策	改善プランの評価・来年度にむけて
コミュニケーションへの関心・意欲・態度	1年	○会話の活動に積極的である。 ▲アルファベットの正しい読み方が身に付いていない。 ▲筆記に苦手意識を感じて生徒が多い。	毎回の帯活動を中心に発話量や会話量を増やしていくことで、体と頭で授業の流れや今学習していることに集中できる環境を設定する。生徒の理解状況に応じた教材づくりを行う。	1年	○ゲーム形式の活動には積極的である。 ▲学力の二極化が深刻である。 ▲提出物を出し切れない生徒がいる。	単語や短い会話の練習を増やし基本文の定着に努める。アルファベットから音を再生できるようにフォニックスの訓練をし、読めない単語を減らすことで音読などに自信を持たせる。課題の提出時期を短く設定し、飽きない授業設計をする。	
	2年	○帯活動には積極的に取り組んでいる。 ○会話の練習に積極的である。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		2年	○帯活動には積極的に取り組んでいる。 ▲音読の声が小さい。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		
	3年	○帯活動には積極的に取り組んでいる。 ○ペア活動には積極的である。 ▲一度ざわつくと切り替えが遅い。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		3年	○帯活動には積極的に取り組んでいる。 ○ペア活動・グループ活動には積極的である。 ▲一度ざわつくと切り替えが遅い。 ▲課題を出し切れない生徒がいる。		
表現の能力	1年	○ALTの授業や発表活動に積極的に参加している。 ▲簡単な会話でつまってしまう生徒がいる。 ▲読めない単語をうやむやにしようとする生徒がいる。	スキットの発表や短いスピーチを多く取り入れ、場数を踏ませることで、英語を覚え、話したり使ったりすることに慣れさせる。 個人やペアで作りたい・独創性のある作文活動を通して、意欲的に活動に取り組めるように課題設定などをする。	1年	○発表活動において積極的である。 ▲読めない単語をうやむやにしてしまう生徒がいる。	プロジェクト型の授業を展開し、単元で一つ発表をすることで班で意見を出し合い、様々な観点から作文・発表活動を行う。その前段階として個人やペアで短い即興の会話活動を進めていく。	
	2年	○ALTの授業や積極的に参加し、作文活動も積極的に取り組んでいる。 ○発表することに抵抗がなくなってきた。		2年	○ALTの授業や積極的に参加し、作文活動も積極的に取り組んでいる。 ○リーディングテストに向けて積極的に練習している。		
	3年	○発表することに抵抗がなくなってきた。 ○グループワークに積極的に参加し、作文活動にも取り組んでいる。 ▲習熟度に差がある。		3年	○発表には抵抗はあるものの班員と協力して発表活動をすることができる。 ▲作文に苦手意識を感じている。		
理解の能力	1年	○単語をその場で暗記することはできる ▲既習の単語を活用することが苦手である。 ▲文章の意味を捉えることが苦手である。(習熟度に大きな差がある)	常学習で短い文章題に触れる機会を増やし、分からない単語や表現が出てきた場合、前後や文脈から推測する練習をする。 また1年生の後半から長文読解を取り入れ、英問英答の練習をしていく。また、3年生は受験に向けてある程度まとまった量の文章を読む練習を定期的に行う。(教科書のテーマに沿った長文)	1年	○単語をその場で使うことができる。またそれを活用して別の活動に使うこともできる。 ▲文章の意味を捉えることが苦手である。(習熟度に大きな差がある)	帯活動での文章題練習やリスニング、ディクテーションを継続して行い、四技能を満遍なく高めていく。リーディングテストを定期的に行うことで、文章を読む力を高めていく。	
	2年	○文章を素早く推測しながら読める。 ▲英問英答に苦手意識を持つ生徒が多い。		2年	○並替えの活動では高い正解率がでる。 ○リーディングの帯活動を通して、読解力が向上している。 ▲文章の大義は掴めるが、一文ずつの理解ができてきた。		
	3年	○文章問題に慣れた。 ○文章問題などで分からない単語や表現があっても読み進めることができる。 ▲英問英答を苦手としている生徒が多い。		3年	○帯活動の文章題を解く活動では、正解率が高まってきた。 ▲長い英文を意味のかたまりごとで理解できていない。		
言語や文化についての知識・理解	1年	○単語学習などの単調で作業的な学習に苦手意識がある。 ○海外の文化に興味を持つ人が多い。 ▲単語学習の身に付きに差が出始めている。	どの学年も単語の学習に焦点を当て、方法として、自作の単語帳を活用し、習熟度の高い生徒や学習意欲のある生徒を中心に個人テストを実施する。また定期的に単語テストを実施する。	1年	○単語学習やノート作りなどの作業的な学習に取り組むことができる。 ○諸外国の文化や背景に興味のある生徒が多い。 ▲単語学習の身に付きに差が出始めている。	自作の単語帳を活用し、習熟度の高い生徒や学習意欲のある生徒を中心に個人テストを進める。毎時間で45秒間の単語音読を繰り返すことで、同じ単語に触れる機会を沢山作る。諸外国の文化などをすると同時に日本文化についても考えさせていきたい。	
	2年	○文章の中で単語を意識し学習を進めることができる。 ▲単語力に差がある。		2年	○諸外国の文化や様々なテーマの文章を読むことで幅広い知識がふえてきた。 ▲単語学習の身に付きに差がある。		
	3年	○単語学習などの単調で作業的な学習に粘り強く取り組める。(単語テストへの意欲) ○海外の文化に興味を持つ人が多い。 ▲単語力に差がある。		3年	○諸外国の文化や背景に興味のある生徒が多い。 ▲単語の習熟に差がある。		
授業改善の検証方法	・授業観察 定期考査 ・音読テスト ・単語テスト(学級・個人) ・単元テスト ・グループ学習(協同学習) ・クラス学習(アクティブラーニング) ・リスニングテスト			・授業観察 定期考査 ・音読テスト ・単語テスト(学級・個人) ・単元テスト ・グループ学習(協同学習) ・クラス学習(アクティブラーニング) ・リスニングテスト ・発表活動 ・ALTとの会話テスト ・英検IBAテスト			
研修課題(キャリア教育に関連した教科としての取組)	研修課題に対する教科としての具体的な実践方法	1学期の成果と課題	1学期の結果を踏まえた具体的な実践方法及び追加内容	2学期までの成果と課題	1年間の成果と今後の課題		
英語の社会的・世界的有用性や、表現や活動を実生活に落とし込むことで将来への活用を感じさせる。	・英検IBAテストの実施 ・ドリル学習(帯学習・タブレットの活用) ・ペア活動や、グループ活動を多く取り入れた授業実践 ・定期的な表現活動の実施(スピーチやスキット発表)・・・既成文と創作文	○1年生は英語の学習が本格的になっていく中で、小中連携を意識した学習内容や方法を実践し、苦手意識を抑えることができた。 ○学年やクラスの能力に合わせた教材作成と指導方法でできることが、学習意欲の向上につながった。 ▲基本的に単語力を不足している。2学期からは単語テストを細目に実施し、使用場面を実生活に落とし	・基礎学力向上週間における英語コンテスト ・教科書以外の追加の長文読解の実施 ・さまざまなテーマの作文練習	基礎学力向上週間に英語コンテストを行い、全学年とも基本的な文法事項や語彙の基礎学力が向上した。ただ、最後まで冊子をやり切らなかった生徒と、やり切った生徒との間で学力差が広がっているため、3学期も基本的な文法や語彙の復習を行っている。			